月 報

フルードパワー

No. 184　2014　平成 26. 10. 31

一般社団法人　日本フルードパワー工業会

本　　部：〒105－0011　東京都港区芝公園 3 丁目 5－8 号　機械振興会館内
TEL. 03（3433）5391　　FAX. 03（3434）3354
西日本支部：〒566－8585　大阪府摂津市西一津屋 1-1 ダイキン工業（株）淀川製作所
TEL. 06（6349）0241　　FAX. 06（6349）9865　　油機事業部内

第 7 回西日本支部総会開催

第7回西日本支部総会が、平成26年10月16日(木)に大阪府堺市の「ホテル・アゴーラリージェンシー堺」で開催されました。当日は、下尾新西日本支部長・園田前西日本支部長及び支部会員の皆様方や本部から梶本会長・田中副会長・十万副会長・北畠副会長・澤田監事・古川監事のほか理事の皆様方に加え近畿経済産業局森下剛志製造産業課長殿をはじめとする来賓関係者の陪席等総勢 64 名の皆様方が出席されました。総会は、当初 15:30 の開催を予定しておりましたが、工場見学グループが交通渋滞に巻き込まれホテル到着時間が遅れたため、開催時間を 15:45 に繰り下げ以下の議事次第により、議事を進

退任の挨拶をする園田前西日本支部長

主　要　目　次

ISSN. 1345－2371

西日本支部総会・・・・・・・・・・・・・・・1
第 72 回理事会・・・・・・・・・・・・・・・5
委員会開催・活動状況
　標準化事業／ISO 対策事業　・・・・・・　5
　標準化事業／規格事業　・・・・・・・・　6
　技術調査事業・・・・・・・・・・・・・・・7
広報・PR 関連事業・・・・・・・・・・・・・7
中小企業関連事業・・・・・・・・・・・・・8
PL 対策事業・・・・・・・・・・・・・・・・9
お知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・
工業会ニュース　・・・・・・・・・・・・　8
今後の主要行事予定　・・・・・・・・・・　9

（一社）日本フルードパワー工業会
URL　http://www.jfpa.biz/

行し 16：25 頃に無事終了しました。

第 7 回西日本支部総会議事次第

1. 開　　会
2. 前支部長挨拶　園田前西日本支部長
3. 会長挨拶　　梶本会長
4. 来賓挨拶　　近畿経済産業局
森下剛志製造産業課長
5. 本部報告
6. 支部報告
7. 新支部長挨拶　下尾新支部長
8. 会計報告
9. 閉　　会

山本西日本支部事務局長より西日本支部総会の開催挨拶があり、初めに園田前西日本支部長より以下の退任の挨拶を頂きました。

「ご紹介頂きました園田でございます。本日は大変ご多忙のところ、西日本支部総会及び第 72 回本部理事会に多数の方々のご出席をいただき、誠にありがとうございます。当会の西日本支部長の任期はこの５月に終えておりますが、実際の交代は支部総会でとのことですので、この場をお借りしまして一言とご挨拶申し上げます。

私が西日本支部長に就任しました 2012 年度は、先進国市場の低迷が長期化するとともに中国市場が減速したことで、油空圧機器出荷高は前年度比マイナス 16％と低迷しました。しかし、2012 年末の政権交代以降、大胆な金融緩和策を中心としたアベノミクス効果もあり、円高が是正されて輸出企業を中心に持ち直し、2013 年度については前年度比プラス 5.4％に転じました。今後も、震災復興、国土強靭化基本計画、そして 2020 年東京オリンピック需要などに向けたインフラ整備や老朽化対策で国内市場は良化傾向が続くと期待しております。

一方、海外では、急拡大した中国経済は、高成長路線から中成長路線へと大きく方針を転換し、加えて汚職問題一掃を目指した「反腐敗運動」が長引く結果、低迷しております。

このような事業環境の中で、支部長として 2 年間、微力ながら西日本支部の発展に努めて参りました。その間、会員各社様には多大なるご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。後任の支部長には、ダイキン工業（株）の下尾様が就任されました。下尾西日本支部長様にも引き続き、皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。2 年前の支部長就任挨拶でも申しましたが、私共の産業は世界の基幹産業を支えるサポーティングインダストリーであり、その高度な基盤技術により正に縁の下の力持ちとして各産業の発展と成長に寄与してきました。今後も、お客様のニーズを的確に捉え、信頼される誠実な物づくりで事業展開すれば、まだまだ成長することができる産業だと考えています。今後の工業会及び西日本支部の更なるご発展を祈念しまして、退任の挨拶とさせて頂きます。ご清聴ありがとうございました。」

次に事務局より来賓の紹介があり、その後、梶本会長から以下の挨拶がありました。

「本年 5 月の総会で会長に就任いたしました梶本でございます。西日本支部会員の皆様方には、常日頃から当会の運営に格別のご支援をいただき、誠に有難うございます。また、ご多忙の中にも拘りませず、経済産業省　近畿経済産業局　製造産業課の森下剛志課長を始めとする来賓の皆様方にも、ご臨席を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨今の景況ですが、内閣府が9月8日に発表した平成26年4～6月期の実質GDPは年率換算で前期比1.8％の減となりました。これは、消費増税に伴う駆け込み需要の反動減の影響が大きい要因であり、この秋口当たりにはその影響はなくなるだろうと大方見ておりました。

挨拶する梶本会長

ところが、10月1日に発表されました日銀短観の業況判断では、上昇の見通しだった前回調査時と比べ、大企業・全産業が3%減と、2四半期連続で悪化し、若干回復感が想定より遅れている様子であります。しかしながら、2014年度の設備投資計画は、前年度比プラスの見通しであり、楽観視はできませんが、ま

だまだ景況に希望を持っても良いのではないかと思っております。
フルードパワー産業の大切なお客様である日本の工作機械業界の受注総額は、この8月まで6カ月連続して、1,200億円を超えました。そして、1,000億円越えについては12カ月連続にもなっており、内外需とも高水準の受注が継続しています。

また、建設機械業界についても、8月の出荷金額は、内外需合わせまして、対前年同月比7.2%増加の1,830億円と、13カ月連続の増加となっており、合わせて好調さを持続し、喜ばしい限りです。

一方、海外を見ますと、米国が世界経済を牽引する形で好調さを保っておりますが、欧州は依然として南欧諸国の債務問題やウクライナに始まる政局不安を引きずり、中国も生産能力の過剰問題やシャドー・バンキング問題等、金融リスクを抱え不安定要素は高まっております。

このように、米国を除き外需の先行きは不透明な状況が続くものと予想されますので、これからは日本産業の競争力を高めるための政府の政策実行がより一層重要になってくるものと考えます。

税制改革、各種規制の緩和、エネルギーの安定化、TPP 等の自由貿易協定の締結促進によりまして、海外市場を見据えた産業の活性化策や、6 月に改訂されました成長戦略などを、スピード感を持って確実に実行していくことが望まれます。

先月開催しました IFPEX2014 では、日間で３万６千人余りの皆様方においで頂き、我々フルードパワー業界の魅力ある製品を見ていただきました。

今後、東日本大震災の復旧事業に加え、2020 年に開催が決まりました東京オリンピック・パラリンピックに関連した首都圏インフラ整備や、リニア新幹線工事など多くのビックビジネスが推進されます。これらを支えるのもフルードパワーであると思っています。政府施策の強力な実行の下、我が国製造業の発展・競争力強化を支えるために、我々フルードパワー業界も、競争と協調の中で、より良い製品を生み出し、自らの努力により、発展して行きたいと思っております。

最後になりましたが、本日、此処にご参集・ご臨席の皆様方の益々のご健勝とご活躍、そして会員各社のご発展を心よりお祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。ご清聴有難うございました。」

次に来賓を代表して近畿経済産業局森下製造産業課長より以下の要旨のご挨拶を頂きました。「皆様、ご紹介頂きました近畿経済産業局産業機械課長の森下です。本日の西日本支部総会の開催を心よりお慶び申し上げます。また、平素から当近畿経済産業局の諸事業へのご協力を感謝申し上げます。西日本支部におけるフルードパワー業界の各種の事業を推進された園田前西日本支部長に深く敬意を表します。景気についてはここ１年右肩上がりですが、政府としても更なる施策として地域経済の活性化を進めたいと考えております。近畿経済産業局としては、川下・川上産業の交流や異業種交流等を積極的に進めて行きたいと考えております。今年の”ものづくり白書”によれば円安にもかかわらず貿易赤字が続いており、これに対応するためには、生産性向上を図ることが極めて重要であると指摘しております。

機械産業を支えるフルードパワー産業のさらなる国際競争力の強化を期待しております。最後になりましたが、下尾新西日本支部長のもと、今後の西日本支部のますますのご発展をお祈りしております。」

次に、本部報告・支部報告を行った後、新たな西日本支部事務局長として大谷　徹（ダイキン工業（株）油機事業部企画部長）が就任されました。
その後、下尾新西日本支部長から以下の挨拶がありました。

「本年５月の総会で西日本支部長に就任いたしましたダイキン工業（株）の下尾でございます。本日はお忙しいなか近畿経済産業局の森下剛志製造産業課長さんをはじめ多数のご来賓の方々並びに本部役員や支部会員の皆様にご出席いただき、誠にありがとうございます。

就任の挨拶をする下尾新西日本支部長

さて最近の経済情勢につきましては、円安で輸出比率の高い工作機械は競争力を増して好調、アメリカは力を取り戻しつつあります。国内は少し雲の切れ目が見え始めましたが、中国はまだこれからとい

うところでしょうか。事業の安定のためには一地域、一市場の景気変動に左右されないグローバルな事業展開の必要性を痛感します。

ところで来年度から日本でも誘導電動機の高効率規制が始まります。油圧ポンプと電動機をセットして商品化としている油圧メーカにとって電動機の価格が上がる、寸法が大きくなる、突入電流が大きくなるなど頭を悩ます問題がありますが、もっと厄介なのが国ごとの認証取得の問題です。電動機メーカは、アメリカ、欧州、中国等の大市場向けには対応するとのことですが、輸出量の少ない国向けには対応しない、仕向地ごとの在庫管理は面倒など機械を輸出する際の大きな障壁となっています。また、各国の規制対象外の電動機に対する見解が油圧メーカによって異なることが我々のユーザである機械メーカに混乱をひきおこします。これは、日本の法律に抵触することではありませんが、仮に輸出先の税関で問題を起こすと、機械が長期間埠頭に留め置かれ、機械メーカに大きな損害をかけることになりますので、厳格に対応すべきと考えております。

ここ堺・泉州の話をさせていただきます。泉州は昔からの物流の拠点大阪を背後で支える工業地帯として機能し、時々の社会の変化への対応に迫られました。

工場見学に来られた方にはバスの窓から大山古墳（伝仁徳天皇陵）がご覧になれたかと思います。周囲には大古墳が連なります。古墳を作るには、土木工事の人員の確保、装飾品としての埴輪の大量生産、さらにそれらにかかわる人々の生活を支える生活道具、食料の大量生産などが必要です。これらのニーズに対応して人と物のネットワークが構築され社会の構造が変化したといわれます。泉州の丘陵では、豊かな森を利用し、1,000 基に及ぶ窖窯が築かれ土器の集中生産が始まり、全国に送られました。周囲の森林は伐採され、窯は燃料となる山林を求めて虫食いのように内陸に移動してゆきました。工業の発展と燃料の確保は今も昔も表裏一体です。

現在も、陶器川、陶器町の地名が残っています。労働者や馬の食料で大事なものの一つに塩があります。大阪湾沿岸のあちらこちらで塩が作られていましたが、流通ネットワーク構築に伴い、泉州の塩つくりは衰退し、より塩つくりに適した気候の良い紀淡海峡へ生産地が移りました。中世では会合衆による自治都市として大河ドラマに登場しますが、江戸時代になると綿の生産が広まり、高度成長期まで日本の木綿の５０％を生産する一大産地でした。現在はアジアからの輸入が９０％を超え、業態の変革が行われました。日本人はこれまで様々な社会環境、自然環境変化に果敢に取り組み克服してきました。地球温暖化、電力不足など現在の様々な課題は逆に日本にとって大きなチャンスです。課題を解決するまねのできない差別化商品開発と品質のよいモノつくりが一番重要と考えます。

懇親会には、フルードパワーシステム学会の先生方も参加されます。我が国の油空圧技術が産学連携で高められ、世界で生き残れる技術・商品になるように、この場が役に立てれば何よりです。

最後に、西日本支部会員各社の皆様の更なるご発展をお祈り申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。」

その後、大谷新事務局長から西日本支部の会計報告が詳細に行われ審議の結果承認されました。

事務局から会議終了の挨拶があり 16:25 頃に終了しました。

なお、恒例の西日本支部主催による工場見学は、新支部長会社であるダイキン工業（株）さんのアレンジで同社の堺製作所の工場を見学させていただきました。ありがとうございました。

総会翌日は、新西日本支部長のダイキン工業（株）さんのご厚意により「天野山カントリークラブ」で「第 7 回西日本支部懇親会」を開催しました。当日は、花曇りの恵まれゴルフ日和となりました。参加者一同日頃の精進の成果を期待しプレーを行いましたが、不本意な結果の方もおられたようでした。成績は以下の通りです。

優　勝　竹崎　一生（アクト電機工業（株）
取締役社長）
2　位　佐竹　和彦（アクト電機工業（株）
代表取締役会長）
3　位　弘光　進（事務局）

臨時総会の開催

西日本支部総会後休憩をはさみ 16:35 より同ホテル 4 階の「ロイヤルホール」において臨時総会を開催し、理事の選任の件を審議しました。その結果、豊興工業(株)堀内雄介社長殿が新理事に選任され、16:42 に臨時総会は終了しました。

第 72 回理事会

臨時総会終了後直ちに同じ場所で第 72 回理事会を開催しました。理事会には、西日本支部総会に出席された支部会員の皆様もオブザーバーとして参加されました。初めに事務局から本理事会への理事の

出席状況について報告が行われ本理事会が有効に成立している旨説明しました。梶本会長が議長に就任し会議の開催を宣し審議に入りました。議長は来賓として出席していた経済産業省製造産業局産業機械課の中嶋　匡係長に挨拶を要請し、同氏から挨拶を兼ねて「平成 27 年度の経済産業省関係税制・予算要求の概要」及び「所得拡大促進税制の手引き」「生産性向上設備投資促進税制について」について資料に基づき説明がありました。次に議長は、議事録署名人として代表理事及び監事 2 名を指名し、議事次第に基づき議事の審議に入りました。

第 1 号議案

平成 26 年度の受託事業費の確定についての件

当会では、JIS に係る受託事業を実施している。平成 26 年度は、JIS 関係で（一財）日本規格協会と 8 月 1 日付で総額 26 万円の委託契約を結びました。5 月の総会時には、金額未定の予算案で審議をお願いしました。8 月 1 日付で委託契約が結ばれたため本理事会において承認を得るもので、審議の結果承認されました。

第 2 号議案

（一社）日本フルードパワー工業会　諸規程類の追加制定について

一般社団法人日本フルードパワー工業会の発足に伴い、昨年来の理事会で 19 件の諸規程類を整備しましたが、未制定であった「職員育児休業等規程」「職員介護休業等規程」「子の介護休暇取扱規程」の 3 規程を追加制定する必要があるため、審議をお願いしたもので、審議の結果承認されました。

第 3 号議案

臨時総会で選任された堀内新理事及び退任された平田前理事からそれぞれご挨拶を頂きました。

第 4 号議案

その他

次に事務局より、今後の主要日程の件等について配布資料により説明しました。以上で審議を終え 17：05 に終了しました。

その後、17：15 頃より「春慶」に場所を移し、支部会員及び出席理事並びに来賓関係者に加え産学連携事業の一貫として JFPS 学会の築地会長（上智大学教授）、早川理事（奈良高専教授）、加藤準教（福岡工業大学）の先生方を交えた西日本支部との合同懇親会を開催し、和気あいあいのうちに散会しました。

合同懇親会

委員会開催・活動状況報告
（詳細については各担当者にご照会下さい）

～～～～～～～～～～～～～～～

標準化事業／ISO 対策事業

～～～～～～～～～～～～～～～

空気圧調質機器分科会

日　時　10 月 27 日（月）13：30 ～ 16：00

場　所　機械振興会館 1－5 会議室

出席者　小田主査以下 4 名

事務局　千葉

議　事

前回議事録確認後、ISO/TC131/SC5/WG5 ロンドン会議報告として，サイレンサーの審議状況の説明及び日本の主張について報告があった。その他，議題となった用語及びフィルタの清浄度等級について審議状況の説明があった。続いて，サイレンサーに関連して，今後，日本の供試品についてラウンドロビンテストを海外において行うことになったので，日本においても 3 社の各 1 モデルについてラウンドロビンテストを行うことにした。

次回開催：12 月 15 日（月）機興会館 1－5 会議室

＊ISO の動き

ISO／TC131 ロンドン国際会議

10 月 13 日から 17 日まで英国ロンドンにおいて開催された。

会議は、TC131，TC131/WG4、SC1/WG1、SC1/WG2、SC1/WG4，SC3/WG1、SC3/WG2、SC4/WG1、SC4/WG2、SC4/WG6、SC5/WG2、SC5/WG3、SC5/WG5，SC8/WG11，SC9 の各分科会が開催された。

日本からは、横浜国立大学の眞田教授，東京計器(株)の渋谷委員、SMC（株）の妹尾委員、田村委員、甲南電機(株)の小田委員，（株）TAIYO の東川委員、イハラサイエンス（株）の湯本委員、横浜ゴム（株）の宮下委員、ブリヂストンフローテック（株）の中林委員、ボッシュ・レックスロス（株）の浦井委員の10 名が参加した。会議の詳細については、後日、報告書を作成し公表します。

投票に付されている ISO 規格案
（TC131）
DIS 12829 Hydraulic fluid power -- Spin-on filters with finite lives -- Method for verifying the fatigue life rating and the burst pressure rating of the pressure containing envelope

DIS 21018-4 Hydraulic fluid power -- Monitoring the level of particulate contamination in the fluid -- Part 4: Use of the light extinction technique

FDIS 18413 Hydraulic fluid power -- Cleanliness of parts and components -- Inspection document and principles related to contaminant collection, analysis and data reporting

発行された ISO 規格
（TC131）
ISO 6358-3:2014 Pneumatic fluid power -- Determination of flow-rate characteristics of components using compressible fluids -- Part 3: Method for calculating steady-state flow-rate characteristics of systems

～～～～～～～～～～～～～～
標準化事業／規格事業
～～～～～～～～～～～～～～

油圧バルブ分科会
日　時　10 月 1 日（水）13：30 ～ 16：00
場　所　機械振興会館 1－3 会議室
出席者　浦井主査以下 11 名
事務局　千葉
議　事
前回議事録確認後、先に行われたプロダクトプロパティー説明会の報告，平成 26 年度 JIS 見直し調査の検討及び投票に掛かっている DIS 2 件，定期見直し 1 件について検討した。
続いて平成 26 年度 12 月応募予定の JIS B 8659-2 3 方向流量制御弁の試験方法について改訂翻訳作業に入った。前回に引き続き箇条 9 から 9.1.5 までを審議した。
次回開催：12 月 11 日（木）機振会館 1－3 会議室

流量測定分科会
日　時　10 月 2 日（木）13：30 ～ 16：30
場　所　機械振興会館 1-3 会議室
出席者　妹尾主査以下 8 名
事務局　千葉
議　事
前回議事録確認後，妹尾主査より、10 月に開催予定の ISO／TC131／SC5／WG3 ロンドン会議の議題について説明があった。
続いて，今年度 8 月にスタートとした ISO 6358-1 の JIS 原案について審議を継続した。
次回開催：12 月 5 日（木）機振会館 1－3 会議室

油空圧シール分科会
日　時　10 月 3 日（金）13：30 ～ 16：50
場　所　機械振興会館 6-61 会議室
出席者　川口主査以下 13 名
事務局　千葉
議　事
川口主査の議事進行により前回議事録及び　配付資料確認を行った。まず、JIS 見直し調査の対象となっている 2 件の規格について検討し，JIS B 8395 は改正，JIS B 8663 は確認とすることにした。続いて、ISO に関連してプロダクトプロパティーの新しい動きについて報告があった。
次に，工業会規格 JFPS 1017 「シールの用語」の見直し案についての審議を行った。続いて、ISO 2230 に基づく工業会規格「ゴム製シール－保管に対する指針」案について審議した。
次回開催：11 月 25 日(火)機振会館 6－62 会議室

エアドライヤ分科会
日　時　10 月 21 日（火）13：30 ～ 16：00
場　所　工業会会議室
出席者　間瀬主査以下 4 名
事務局　千葉
議　事
前回議事録の確認後、平成 26 年度 JIS 見直し調査の検討及び投票に掛かっている DIS 2 件，定期見直し 1 件について検討した。続いて，工業会規格とし

て検討中の「エアドライヤの選定及び使用指針」について、配布資料案をもとに検討した。
次回開催：H27-2 月 20 日（金）工業会会議室

空気圧バルブ分科会
日　時　10 月 23 日（木）13：30 ～ 16：00
場　所　機械振興会館 1－5 会議室
出席者　丸山主査以下 4 名
事務局　千葉
議　事
　前回議事録確認後、JIS B 8373 空気圧用電磁弁の改正申請案の修正点について説明があった。続いて、バルブの信頼性試験に関する ISO への修正提案に関連し，ロンドン会議における状況説明があった。最後に，最低作動圧力の測定方法の見直しについて議論し，今後の進め方を確認した。
次回開催：12 月 18 日（木）機振会館 1－5 会議室

～～～～～～～～
　技術調査事業
～～～～～～～～

技術委員会空気圧部会第 504 回特許分科会
日　時　10 月 10 日（金）13：00 ～ 17：00
場　所　京都市呉竹文化センター第 2 会議室
出席者　井野幹事以下 7 名
事務局　吉田
議　事
　はじめに前回議事録及び配付資料の確認を行った。公報の検討と無効審判請求について継続審議案件は 5 件、1 件目は、見解書の内容について審議した。2 件目については、証拠資料が 1 件しかなく今回で審議を終了することとした。3 件目については引き続き調査を行うこととした。4 件目については証拠資料 3 件をもとに見解書の作成を依頼することとした。5 件目については参考資料が提出された。引き続き調査を行うこととした。
　平成 26 年度 9 月末現在の収支報告書について検討・審議し異議なく承認された。
次回開催：11 月 7 日（金）機興会館 6－61 会議室

技術委員会水圧部会
日　時　10 月 7 日（火）14：00 ～17：00
場　所　機械振興会館 B3-3 会議室
出席者　宮川部会長以下 13 名
事務局　藤原、大橋
議　事
①　IFPEX2014 出展総括と来場者調査
　IFPEX2014 出展企業 10 社による水圧コーナー出展結果の総括を行ない、各社から今回の来訪者の反応、良かった点、反省点・課題事項、また今後取り組むべき問題点等について感想・意見交換を行った。その後、バーコードを利用した各社の来場者調査結果をもとに来場者の傾向を把握し、調査方法の問題点について意見交換を行った。調査データは、今後、各社のヒアリング結果も加味して、市場分野マップの区分によって整理・分析を引き続き行うこととした。
②　HP・ブログ
　IFPEX2014 の出展予告から来場御礼まで合計 6 回にわたりブログ記事を掲載済みであり、その画像を再確認した。展示物写真・パネルデータなどの掲載方法については、今後、意見を募っていく。なお、JFPA の新 H.P. からブログへのリンクがわかりにくいとの意見があり事務局にて改善することとした。
③　その他報告事項
　機関誌新年号（VOL.29 NO.1）に水圧コーナーへの出展報告を掲載する予定であり、水圧セッションにて講演のワタナベフーマック殿に「フルードパワーの挑戦」記事の執筆を依頼中であることを報告した。
次回開催：12 月 4 日（木）機振会館 B3－7 室

～～～～～～～～～～
　広報・PR 関連事業
～～～～～～～～～～

第 87 回編集委員会
日　時　10 月 3 日（金）～4 日（土）
場　所　伊豆高原ユートピア
出席者　齋藤委員長以下 11 名
事務局　藤原、大橋
議　事
①　JFPA 創立 60 周年記念号の発行企画
　創立 60 周年の工業会全体としての行事は今後検討する予定であるが、機関誌は 40 周年相当号、50 周年記念特集号に倣い、2016 年春号 VOL.30 NO.2（5 月発行）に特集を組む前提で、前回の編集委員会 WG にて企画案を検討した。その素案と、編集委員会の所掌となる＜技術編＞の構成･内容に対する WG 各委員の意見集をもとに審議を行った結果、基本方針として承認された。
　＜技術編＞については 50 周年以降 10 年間の技術動向を記録として残し、その上でフルードパワーの将来に対する夢や挑戦を語る構成とするよう配慮し

てWGにて企画を詰め進めていくこととなった。また、座談会の開催及び JFPS 誌･専門商業誌･工業総覧など過去の記事の分析作業の提案などがあった。

② 通常号の発行報告と企画状況

VOL.28 NO.2（春号）、VOL.28 NO.3（夏号・IFPEX2014特集）の発行報告の後、年間企画表をもとにVOL.28 NO.4（秋号・IFPEX 特集）、VOL.29 NO.1（新年号）、VOL.29 NO.2（春号）の企画状況を披露した。「日本留学生の声」の記事が4回連載され、その後の執筆者が未定のため顧問委員に推薦していただくこととした。

次回開催：第88回 平成27年4月7日（火）予定

～～～～～～～～～～

中小企業関連事業

～～～～～～～～～～

平成26年度第3回中小企業委員会

日　時　10月8日（水）15：00 ～ 17：00

場　所　機械振興会館5S－1会議室

出席者　十万委員長以下14名

事務局　藤原、堀江、大橋

議　事

① 開会挨拶　十万委員長

② 景況と業界現況報告

藤原専務より国内の景況と需要業界の受注・販売動向等ついて説明し、その後出席各社からの現況報告があった。

③ 講演会

独立行政法人産業技術総合研究所先進製造プロセス研究部門 基盤的加工研究グループ長の岡根利光氏に講師をお願いし「３Ｄプリンターのものづくりへの応用」の演題にて講演会を開催した。当工業会に関係の深い鋳造への応用に関しても、その特徴や利点、問題点など最新の情報をもとに話題を提供していただいた。

講演中の産業技術総合研究所・岡根利光氏

講演内容の概要は機関誌「フルードパワー」（Vol.28,No.1）に講演報告として掲載する予定。

次回開催： 2月18日（水）機振会館5S－1室

平成26年度中小企業WG研修事業

日　時　10月17日（金）～18日（土）

場　所　（株）ワイビーエム及び九州電力･八丁原地熱発電所

出席者　松岡・廣井幹事以下11名

事務局　大橋

報　告

平成26年度中小企業委員会WGの研修視察先として、従前からWGメンバーからの要望の強かった九州地区の地熱発電所と関連企業の見学を行った。

一社目の（株）ワイビーエム殿は、創業が昭和21年の、掘削機、高圧グラウトポンプ、ウォータージェットポンプ、周辺装置等の製造メーカであり、油圧機器を数多く使用している。委員企業である（株）マツイの福岡支店の顧客であり、今回の訪問を調整していただいた。工場見学の前に、地熱エネルギーの利用方法としての、高温域の蒸気発電と低温熱源である地中熱利用ヒートポンプ、製造製品の概要説明を受け、その後工場を見学させていただき意見交換を行った。

次の訪問先、九州電力･八丁原発電所は、11万ｋＷの発電能力を持つ日本でも有数の地熱発電所であり、1949年に調査を開始して1977年に1号機が完成・稼働を開始した。現在は､2基稼働している。約2,000ｍの地中へのパイプ埋設に用いる掘削機はワイビーエム製を使用しており､補修作業員も常駐している。展示館にて地熱発電の原理や仕組み、特徴と問題点等の説明を受けた後、写真に示す冷却塔設備や地上を張り巡らせている蒸気パイプなどを外部から見学し、点検中のタービン室の一部を見学させていただき意見交換を行った。

写真　八丁原地熱発電所･冷却塔（看板は合成）

なお、当事業報告についても、機関誌に概要を掲載する予定。

～～～～～～～

PL 対策事業

～～～～～～～

PL 委員会及びセミナー並びに平成 27 年度 PL 保険制度の説明会の開催

日　時　10 月 28 日（火）13：00 ～ 16：30

場　所　機械振興会館 6D－4 会議室

出席者　澤田委員長以下 3 名(委員会)

事務局　藤原、堀江

議　事

定刻に PL 委員会を開催した。初めに澤田委員長から開催の挨拶があり、新たな製造業者 E&O（経済損失カバー）保険の検討状況と今後の進め方についてワールドインシュアランスブローカーズの田島部長、金田担当の両氏を交えて審議した。その後、恒例の PL セミナーを開催した。

初めに澤田委員長から開会の挨拶と講師の紹介が行われた。今回のセミナーは、「東京海上日動火災保険（株)」と同所の子会社である「東京海上日動リスクコンサルティング（株)」の参加を得て、「賠償責任リスクの定量評価手法のご紹介」については、東京海上日動コンサルの上沢主任研究員が、「海外 PL 保険・損害サービスについて」（米国・中国における訴訟事情とその対応）については、東京海上日動の清水課長代理がそれぞれ講演した。なお、当日使用した電子資料が事務局にありますので、事務局堀江までご連絡ください。

PL セミナー

～～～～～～

お知らせ

～～～～～～

☆平成 27 年度団体総合保険制度への新規加入･継続加入をご案内中

平成 26 年 11 月 8 日付けで､平成 27 年度団体総合保険制度（国内 CGL・国内 PL・海外 PL）への新規加入･継続加入のご案内をさせていただいております。昨今の輸出拡大や海外への事業進出展開を踏まえ、海外 PL 制度の最低保険料の低廉化を図り､諸々のリスクに対応でき加入者に大きなメリットがある保険制度となっております。

具体的内容につきましては、本保険制度の取扱ブローカーであるワールドインシュアランスブローカーズ（株）の関係者が参上の上、各社のご事情を伺い、お見積等をさせていただきます。月日（）までに所定の様式により申し込みお願い申しします。

～～～～～～～～～～

今後の主要行事予定

～～～～～～～～～～～～

☆12 月 16 日（火）

第 21 回政策委員会

（場 所）当会会議室

＊平成 27 年

☆1 月 16 日（金）年始会及び第 73 回理事会

（場　所）東京プリンスホテル

☆2 月 18 日（水）第 4 回中小企業委員会

（場　所）機振会館

☆4 月 17 日（金）第 74 回理事会

（場　所）東京プリンスホテル

☆5 月 14 日（木）平成 27 年度定時総会

（場　所）東京プリンスホテル

☆5 月 14 日（木）総会後の懇親会

（場　所）東京プリンスホテル

☆5 月 15 日（金）懇親ゴルフ会

（場　所）程ヶ谷カントリー倶楽部

9:12　OUT・IN 各 3 組

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

10 月に開催された当会各委員会に出席された皆様は以下の通りです。（敬称略）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（標準化事業／ISO 対策事業）
空気圧調質機器分科会
開催日　10 月 27 日（月）
出席者
主　査　小田敏裕（甲南電機）
委　員　三村　岳（SMC）
〃　郡司　浩（コガネイ）
〃　田中尚志（CKD）
〃　高橋隆通（甲南電機）

（標準化事業／規格事業）
油圧バルブ分科会
開催日 10 月 1 日（水）
出席者
主　査　浦井隆宏（ボッシュ・レックスロス）
委　員　松田幹人（川崎重工業）
〃　高野一治（油研工業）
〃　加藤靖丈（豊興工業）
〃　安永和敏（東京計器）
〃　野田隆明（ダイキン工業）
〃　森田浩司（廣瀬バルブ工業）
〃　中野　潤（ナブテスコ）
〃　小倉祐二（不二越）
〃　中村雅之（KYB）
〃　小林　剛（日立建機）

流量測定分科会
開催日　10 月 2 日（木）
出席者
主　査　妹尾　満（SMC）
委　員　高橋浩爾（上智大学）
〃　香川利春（東京工業大学）
〃　張　護平（SMC）
〃　長井敏和（CKD）
〃　齊藤　悠（コガネイ）
〃　沖山健二（クロダニューマティクス）
〃　八手又秀浩（日本ピスコ）

油空圧シール分科会
開催日　10 月 3 日（金）
出席者
主　査　川口　葵（阪上製作所）
委　員　小畑博美（JFPA）
〃　南　　暢（日本バルカー工業）
〃　中尾雅司（NOK）
〃　國廣洋一（NOK）
〃　方波見栄次（荒井製作所）
〃　保科俊明（SMC）
〃　深町哲也（CKD）
〃　太田正貴（阪上製作所）
〃　細川　敦（三菱電線工業）
〃　相場宣慶（東京計器）
〃　茨木満雄（ニューエラー）
〃　斎藤俊一（日東工器）

エアドライヤ分科会
開催日　10 月 21 日（火）
出席者
主　査　間瀬達夫（CKD）
委　員　那須一文（SMC）
〃　竹内則久（オリオン機械）
〃　西端一弘（日本精器）

空気圧バルブ分科会
開催日　10 月 23 日（木）
出席者
主　査　丸山哲郎（SMC）
委　員　河野喜之（甲南電機）
〃　土澤聡明（コガネイ）
〃　中古　弘（TAIYO）

（技術調査事業）
技術委員会空気圧部会
第 504 回特許分科会
開催日　10 月 10 日（金）
出席者
幹　事　井野雅康（SMC）
委　員　栗盛宏樹（アズビル TACO）
〃　出澤　大（クロダニューマティクス）
〃　佐藤　浩（コガネイ）
〃　赤松直人（甲南電機）
〃　甲山登紀夫（CKD）
〃　堀田秀和（TAIYO）

技術委員会水圧部会
開催日　10 月 7 日（火）
出席者
部会長　宮川新平（KYB）
委　員　大林義博（KYB）
〃　井口　務（廣瀬バルブ工業）
〃　村田秀紀（阪上製作所）
〃　鳥居良介（阪上製作所）
〃　梅田大輔（大阪ジャッキ製作所）
〃　柿木宗之（ﾀｲﾖｰｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ）

〃　志岐英伸（大電）
〃　細井耕平（堀内機械）
〃　村上康裕（村上製作所）
〃　高橋永治（マルヤマエクセル）
〃　内田　晃（日本アキュムレータ）
〃　宇根利典（宇根鉄工所）
〃　上片平亮（ﾌｼﾞｻﾝｹｲﾋﾞｼﾞﾈｽｱｲ）

（広報・PR 関連事業）
第 87 回編集委員会
開催日　10 月 3 日（金）
出席者
委員長　齋藤圭介（KYB）
副委員長　水野純一（CKD）
WG 主査　前畑一英（KYB）
顧　問　北川　能（東京工業大学）
〃　小山　紀（明治大学）
〃　田中　豊（法政大学）
委　員　神戸孝典（甲南電機）
〃　高崎邦彦（TAIYO）
〃　永井茂和（SMC）
〃　宮坂　篤（油研工業）
〃　諸橋　博（東京計器）

（中小企業関連事業）
平成 26 年度第 3 回中小企業委員会
開催日　10 月 8 日（水）
出席者
委員長　十万幹雄（神威産業）
委　員　山本將人（オックスジャッキ）
〃　藤井茂雄（光陽精機）
〃　澤田敬之（ﾀｲﾖｰｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ）
〃　大木則夫（大生工業）
〃　野村伯英（南武）
〃　杉村登夢（日本アキュムレータ）
〃　風間英朗（日本アキュムレータ）
〃　紅林幸久（日本オイルポンプ）
〃　廣瀬一輝（廣瀬バルブ工業）
〃　杉崎秀之（廣瀬バルブ工業）
〃　松井源太郎（マツイ）
〃　増田堅太郎（増田製作所）
〃　中嶋　匡（経済産業省）

平成 26 年度中小企業 WG 研修事業
開催日　10 月 17 日（金）～18 日（土）
参加者
幹　事　松岡　勉（タカコ）
幹　事　廣井正夫（大生工業）
委　員　桐生邦彦（オックスジャッキ）
〃　花岡隆司（神威産業）
〃　高野和治（光陽精機）
〃　風間英朗（日本アキュムレータ）
〃　田中裕之（日本オイルポンプ）
〃　福田賢二（堀内機械）
〃　松井源太郎（マツイ）
〃　木下純夫（三尾製作所）
〃　保坂純一（理研精機）

（振興対策事業）
シリンダ部会
開催日　10 月 22 日（水）
出席者
部会長　河合　崇（KYB）
委　員　福田賢二（堀内機械）
〃　師星　光（油研工業）

（PL 対策事業）
平成 26 年度 PL 委員会
開催日　10 月 28 日（火）
出席者
委員長　澤田敬之（タイヨウーインタナョナル）
委　員　新木　徹（大生工業）
ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　田島祐一（ﾜｰﾙﾄﾞｲﾝｼｭｱﾗﾝｽﾌﾞﾛｰｶｰｽﾞ）
〃　金田弘基（ﾜｰﾙﾄﾞｲﾝｼｭｱﾗﾝｽﾌﾞﾛｰｶｰｽﾞ）

平成 26 年度 PL セミナー／
平成 27 年度 PL 団体総合保険説明・相談会
開催日　10 月 28 日（火）
出席者
委員長　澤田敬之（タイヨウーインタナョナル）
参加者　北畠多門（SMC）
〃　森山尚人（SMC）
〃　九　圭一（SMC）
〃　茂木賢治（オックスジャッキ）
〃　出村淳二（国際興業）
〃　佐藤寛治（国際興業）
〃　新木　徹（大生工業）
〃　木村　諒（大生工業）
〃　中村賢次（ニューエラー）
〃　森　賢司（日東工器）
〃　西尾拓也（日東工器）
〃　青木律子（イハラサイエンス）
〃　小菅文雄（日本産業機械工業会）
〃　湯澤廣吉（日本工作機器工業会）

〃　　萬井正俊（日本繊維機械協会）
〃　　松山　徹（日本農業機械工業会）
〃　　中嶋　匡（経済産業省）
〃　　八木英一（損害保険ジャパン日本興亜）
〃　　山中尚志（三井住友海上火災保険）
〃　　清水　隆（東京海上日動火災保険）
〃　　田島祐一（ﾜｰﾙﾄﾞｲﾝｼｭｱﾗﾝｽﾌﾞﾛｰｶｰｽﾞ）
〃　　軽部政彦（ﾜｰﾙﾄﾞｲﾝｼｭｱﾗﾝｽﾌﾞﾛｰｶｰｽﾞ）
〃　　吉田卓典（ﾜｰﾙﾄﾞｲﾝｼｭｱﾗﾝｽﾌﾞﾛｰｶｰｽﾞ）
〃　　金田弘基（ﾜｰﾙﾄﾞｲﾝｼｭｱﾗﾝｽﾌﾞﾛｰｶｰｽﾞ）
〃　　江村幸哉（ﾜｰﾙﾄﾞｲﾝｼｭｱﾗﾝｽﾌﾞﾛｰｶｰｽﾞ）

～～～～～～～～

月間行事概要

～～～～～～～～

〈10 月〉

1 日（水）
・ISO（委）油圧バルブ分科会

2 日（木）
・標準化（委）流量測定分科会

3 日（金）
・ISO（委）油空圧シール分科会

3 日（金）～4 日（土）
・編集（委）

7 日（火）
・技術（委）水圧部会

8 日（水）
・第 3 回中小企業（委）

10 日（金）
・技術（委）空気圧部会第 504 回特許分科会

13 日（月）～17 日（金）
・ISOTC131 ロンドン会議

16 日（木）
・第 7 回西日本支部総会
・臨時総会及び第 72 回理事会

17 日（金）
・西日本支部懇親ゴルフ会

17 日（金）～18 日（土）
・中小企業（委）WG 研修事業

21 日（火）
・標準化（委）エアドライヤ分科会

22 日（水）
・振興対策（委）シリンダ部会

23 日（木）
・標準化（委）空気圧バルブ分科会

27 日（月）
・ISO（委）調質機器分科会

28 日（火）
・PL 対策（委）PL 委員会セミナー等

30 日（木）～11 月 4 日（火）
・振興対策（委）JIMTOF2014 開催

☆経済産業省ホームページ

経済産業省の HP では①政策②申請･届出③統計④政策提言⑤情報公開のリンク等から必要な情報が得られます。

http://www.meti.go.jp/

☆中小企業庁ホームページ

中小企業庁 HP でも中小企業向け施策に関する多くの情報が得られます。

http://www.chusho.meti.go.jp/